

平成18年度京都府内発掘調査成果

－第23回小さな展覧会展示遺跡紹介－

- | | | |
|-----------------------------|------|---------|
| 1. 古墳時代の水辺のマツリ－宮津市 難波野遺跡－ | 引原茂治 | P 1～4 |
| 2. 埴輪と古墳のマツリ－木津川市 内田山B 8号墳－ | 竹原一彦 | P 5～8 |
| 3. 八角形墳と銀装の大刀－亀岡市 国分古墳群－ | 筒井崇史 | P 9～12 |
| 4. 小さな展覧会の見どころ（展示品案内） | 田代 弘 | P 13～14 |

期日：平成19年8月18日（土）

場所：向日市民会館 第1会議室

主催 京 都 府 教 育 委 員 会

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

古墳時代の水辺のマツリー宮津市 難波野遺跡ー

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

主任調査員 引原茂治

1. はじめに

難波野遺跡では、道路新設事業に伴って、平成14年度から今年度まで6年にわたって発掘調査を行っています。難波野遺跡は、弥生時代から中世にかけての遺跡として知られており、これまでの調査で、弥生時代中期の方形貼石墓^{ほうけいはりいしぼ}などを検出しています。昨年度の調査では、古墳時代中期の、土器を多数並べたマツリの跡とみられる遺構を検出しました。中世のものとしては、井戸跡や柱穴などとともに、黒漆塗りの上に朱漆^{しゅうし}などで漆絵^{うるしえ}を描いた漆器^{しっき}の碗や皿などが出土しました。これらの漆絵漆器^{うるしえしっき}には、花や鳥の文様が繊細でていねいに描かれたものもあり、残存状況はかなり良好です。また、下駄^{げた}や箸^{はし}などの木製品も多量に出土しました。陶磁器では、中国建窯^{けんよう}産の天目碗片^{てんもくわん}などが注目されます。また、整理作業の段階で、「寛治五年」(1091)の年号が記された木簡^{もっかん}が見つかりました。この木簡は、柱穴から出土しました。このような成果の中から、今回は、古墳時代中期のマツリの跡(祭祀遺構)について報告します。

2. 祭祀遺構の概要

祭祀遺構は、9トレンチと名付けた調査区から見つかりました。トレンチ中央や西側に位置しており、浅瀬に多数の土器などを置いて水辺^{みずべ}の祭祀を行ったものとみられます。土器は、南西側に開口する「コ」字状に配列されており、その範囲は、ほぼ3m×3.5mです。この遺構は、400個体前後の土器で構成されますが、そのほとんどが土師器^{はじき}で、須恵器^{すえき}はわずかです。

北西辺には主に壺^{つぼ}、甕^{かめ}を4ないし5列に配した状況が認められます。出土状況から、甕や壺のうちには、高杯^{たかつき}の上に乗っていたことを推定させるものもあります。この辺の外側に、大形の壺2個体を配しています。

北東辺には壺、甕、高杯、ミニチュア土器などを数列に配したことが推定されますが、崩れて散乱した状況です。南東辺では、主に高杯や杯^{つぎ}を4列程度に配した状況がみられます。

須恵器としては、高杯、ハソウなどがありますが、「コ」字状土器列の内側から主

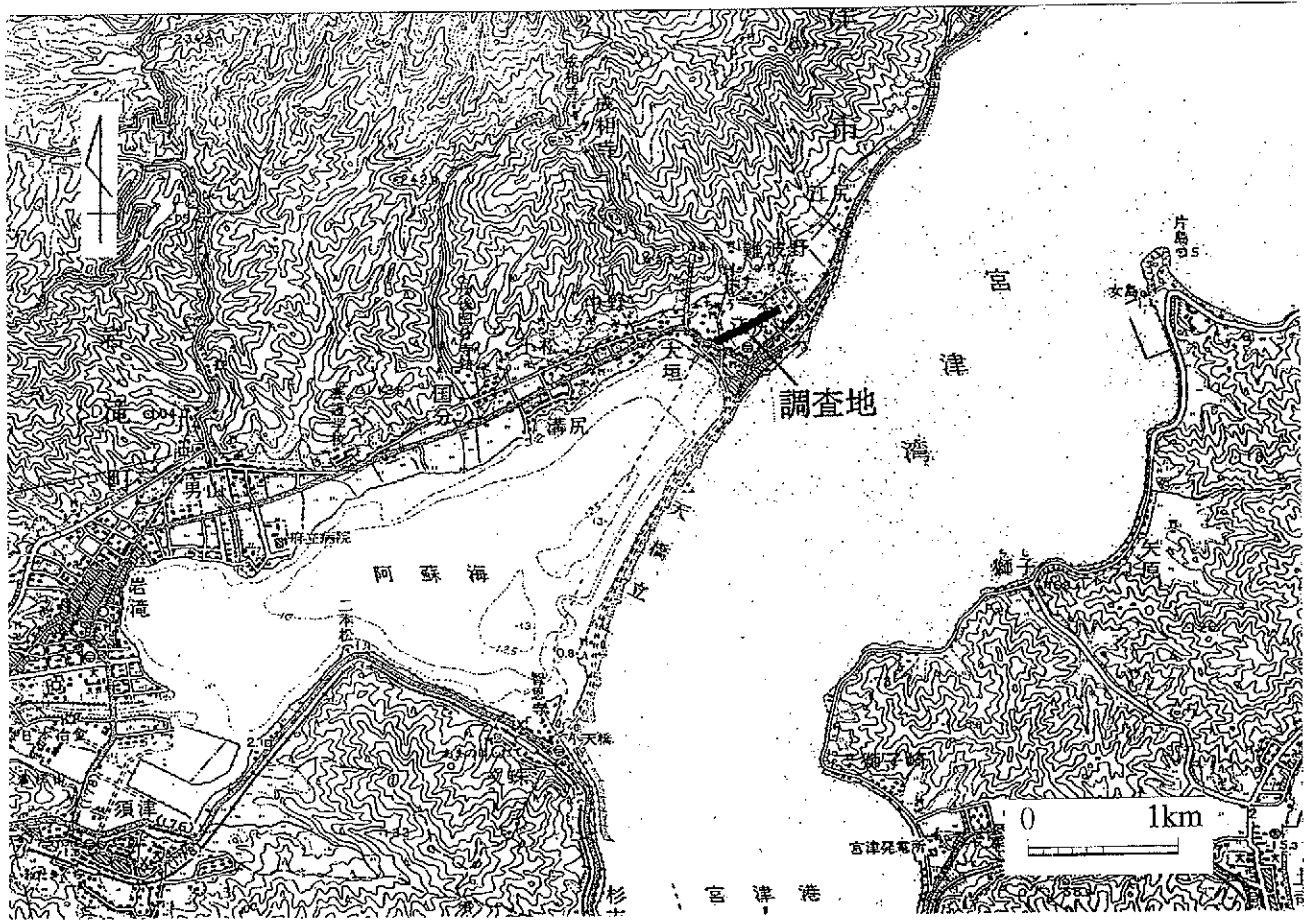
に出土しています。これらの土器は、古墳時代中期頃のものと考えられます。

なお、この遺構からは滑石製の勾玉、白玉、有孔円板なども出土しています。白玉は、200 点以上に及びます。滑石製品は、主に南東辺の土器列付近で出土しています。これらの滑石製品は、器に入れられたものではなく、南東側から撒かれたものではないかとも考えられる出土状況を示すものがあります。

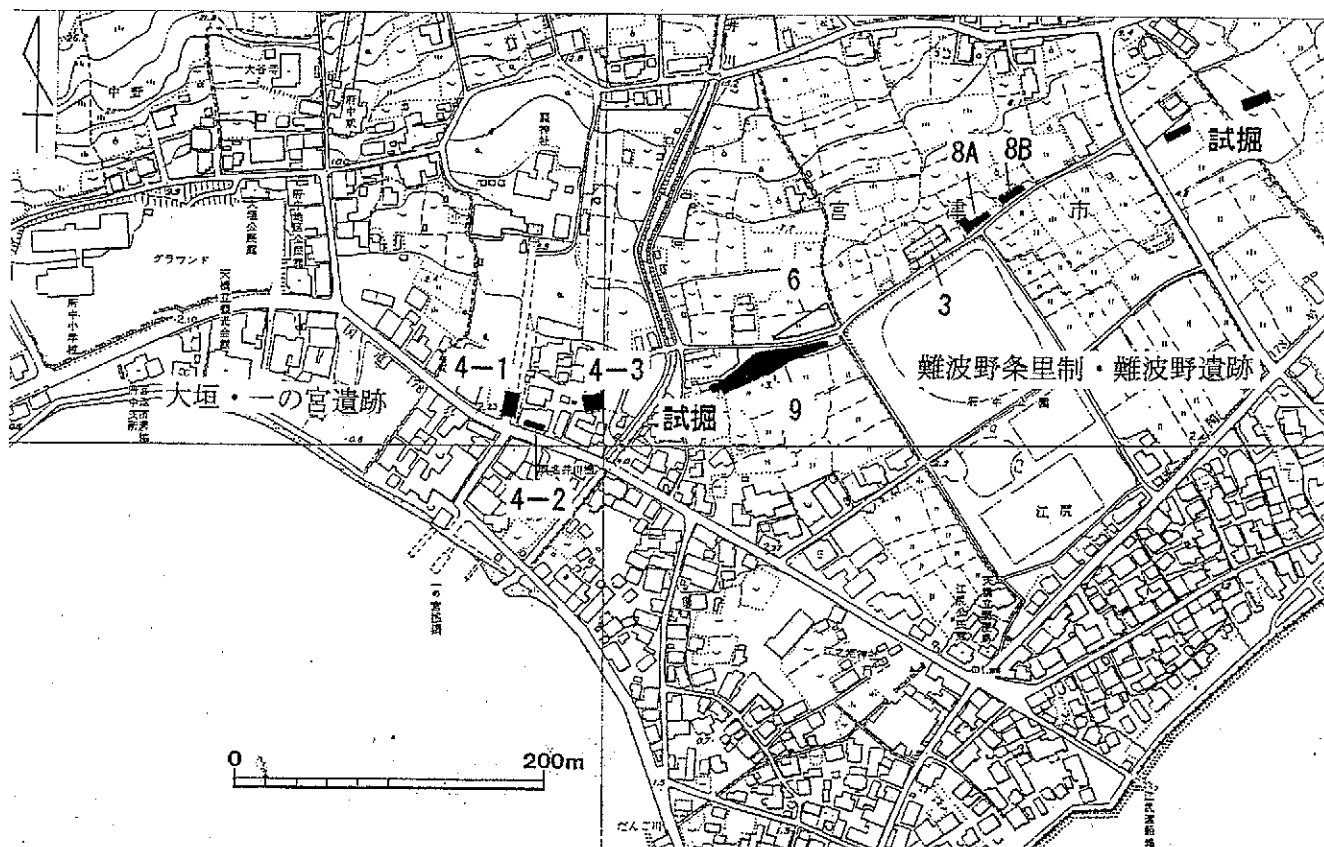
また、この遺構の南がわで、小規模な土器列を検出しました。これも古墳時代の祭祀遺構と考えられます。

3. まとめ

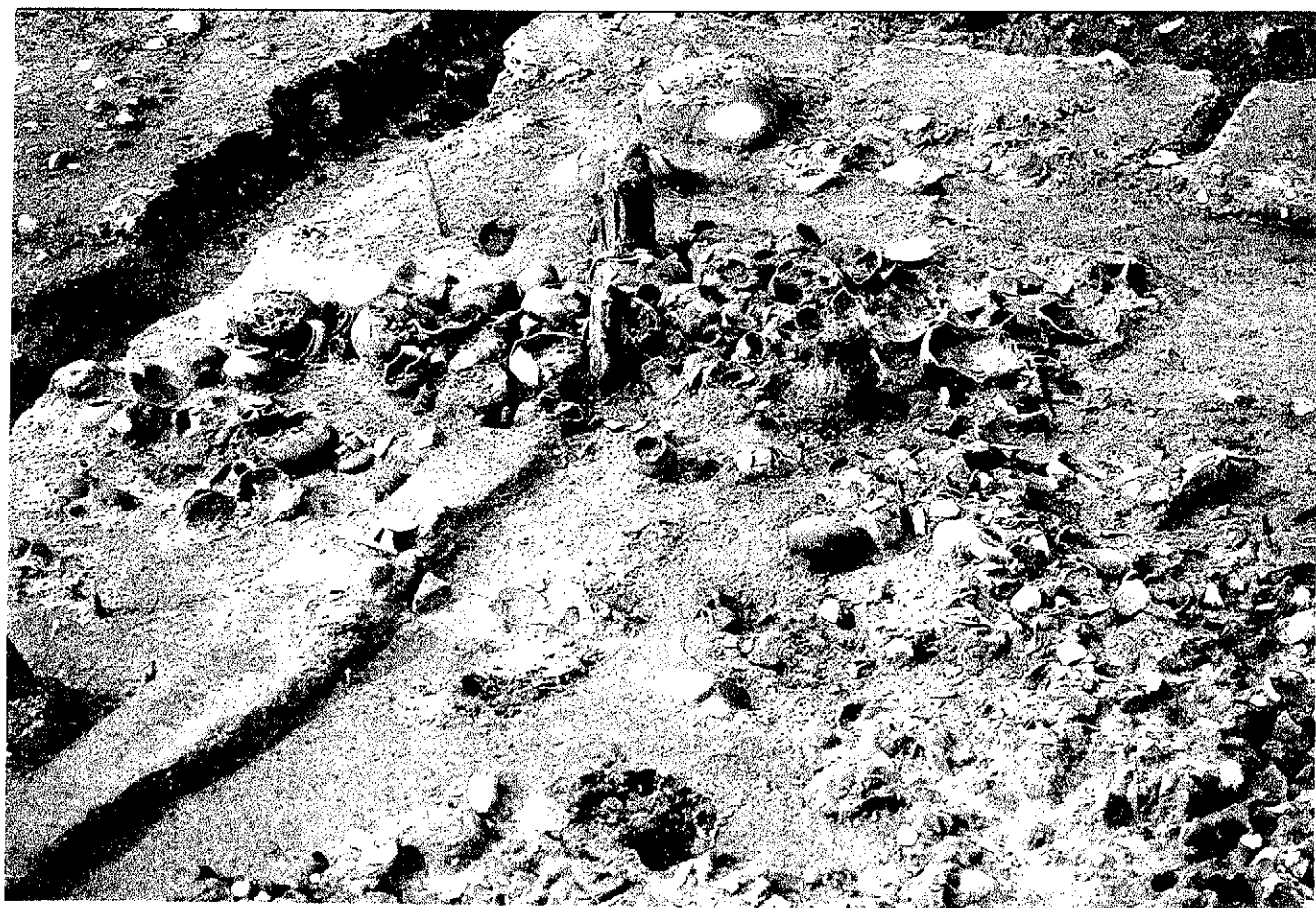
9 トレンチで検出した古墳時代中期の祭祀遺構は、土器の配列状態が良好に残存しており、祭祀遺構の構成を考える上で重要な資料と言えます。全国的に見ても、類例の少ない遺構と言えます。また、付近には古い由来をもつ神社もあり、この周辺が、昔から今に到るまで人々の祈りの場所であったことを偲ばせます。



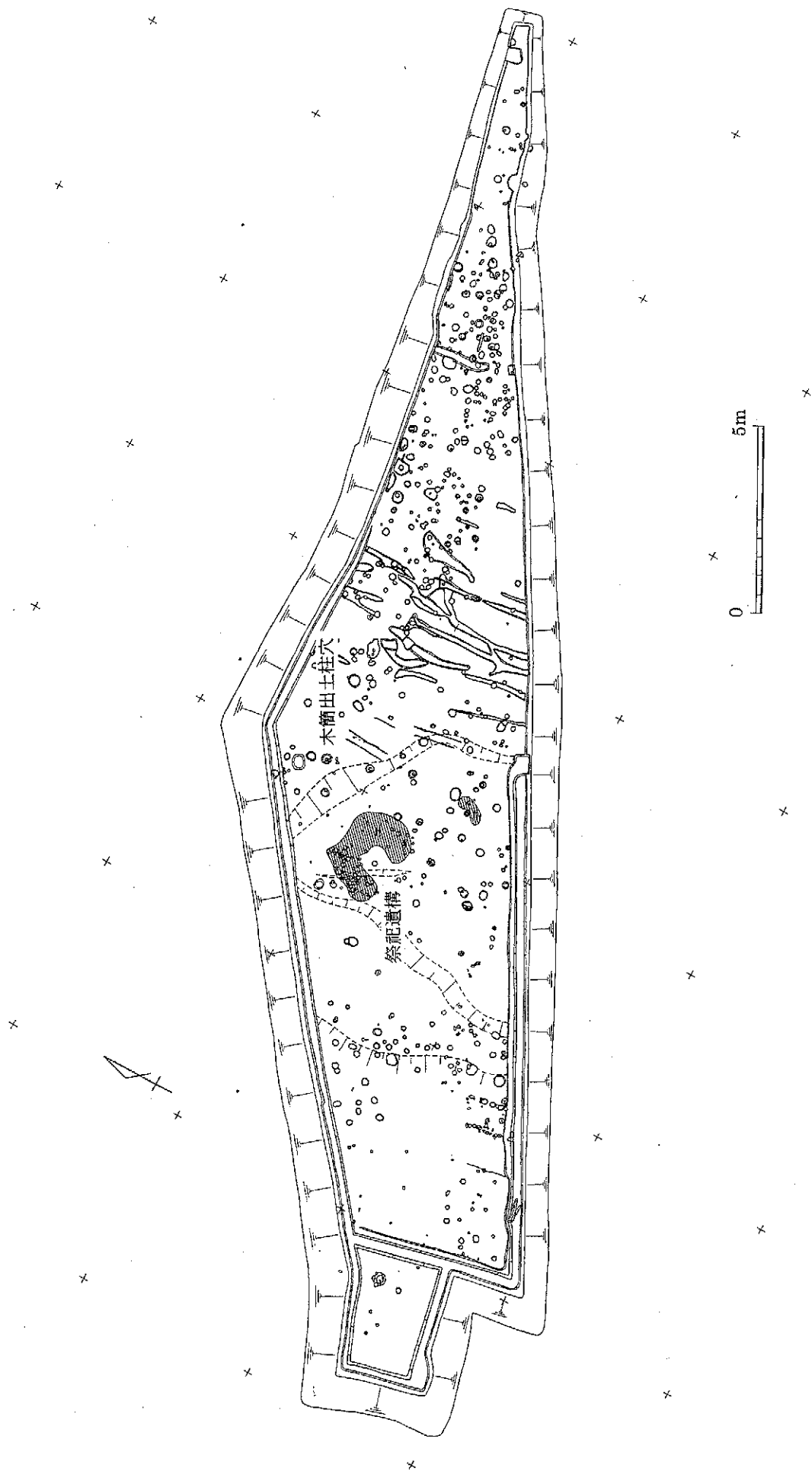
第1図 調査地位置図 (国土地理院 1/50,000 宮津)



第2図 トレンチ配置図



第3図 祭祀遺構 (南東から)



第4図 9トレンチ平面図

埴輪と古墳のマツリー木津川市内田山B8号墳ー

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

主任調査員 竹原一彦

1. はじめに

内田山古墳群は、JR木津駅の東側丘陵、京都府木津川市木津内田山に所在し、府立木津高等学校敷地内のA支群（6基）と、その南側丘陵部のB支群（8基）に別れています。古墳はA支群に2基の円墳がありますが、他は全て方墳で構成されます。いずれも20m未満の小規模古墳で、時代は古墳時代中期に属します。

これまでの調査で、多くの古墳は墳丘が削平で失われ、周溝のみ検出した例が多数を占めます。古墳の埋葬施設は、B支群の1号墳・2号墳・4号墳・5号墳で検出しています。B1号墳では4基の埋葬施設（木棺直葬2基、埴輪棺2基）を検出し、木棺直葬のうちの1基から六獣形鏡1面が出土しました。B2号墳とB5号墳では古墳中央からそれぞれ1基の埋葬施設（木棺直葬）を検出しました。B2号墳の埋葬施設では、内行花文鏡1面が出土したほか、棺内には礫床・枕の施設が存在しました。B4号墳では、周溝部から埴輪棺1基を検出しました。

内田山古墳群では、A支群とB支群の多くの古墳に埴輪が存在し、円筒埴輪や朝顔形埴輪のほかに、家や蓋など多くの形象埴輪が出土しています。特にB8号墳では周溝内から多数の家形埴輪と船形埴輪が出土しました。このような形象埴輪は、古墳で執り行われたマツリ的一端を物語るとみられます。

2. 内田山B8号墳

B支群のなかでも北西端に位置する方墳です。古墳の大部分は削り取られ埋葬施設も失われていますが、古墳の東側と南側の周溝を検出しました。古墳東側の周溝は幅約2mほどの範囲で地山を堀残し、陸橋部を設けています。陸橋南側の周溝は幅約4m・深さ約0.8mの規模を測り、溝底付近からほぼ完全な姿の家形埴輪1点と多量の家形埴輪破片が出土しました。また、埴輪破片は陸橋北側の周溝内にも存在しています。埴輪の復元作業を進めた結果、家形埴輪は大小合わせて6棟となりました。このうち4基は切妻造りの建物、残る2基は入母屋造りの建物です。入母屋造りの建物は大型で、うち1棟は重層構造となっています。同じ周溝内から船形埴輪も出土しています。

家形埴輪と舟形埴輪は、陸橋を挟んだ南北の周溝内から出土し、古墳南側溝ではほとんど埴輪の出土がみられません。このような埴輪の出土状況から、家と船の埴輪は墳丘上ではなく、陸橋に設置されていたと判断されます。陸橋上には埴輪を設置した痕跡が認められず、家と船の配置状況については明らかではありません。

3. まとめ

内田山B8号墳では、これまでに6棟の家形埴輪と1艘の船形埴輪が出土しました。形象埴輪では家形埴輪がもっとも一般的で、古墳時代前期から後期にかけて継続して出土します。家は、豪族の館^{ごうぞく やかた}で死者の霊が宿る場所、船は霊を運ぶことを表すとみられます。墳丘上や周囲を整然と取り巻く円筒埴輪と朝顔形埴輪、墳頂部や造り出し（陸橋）に置かれた形象埴輪は、古墳の荘厳な雰囲気^{きぬがさがたはにわ}を醸し出します。各種・多様な形象埴輪は、死者への弔い^{とむら}や家督^{かどく}・権力の継承^{けんりよく けいしょう}などのマツリに関連したものであり、内田山B8号墳でも同様なマツリが行われていたのでしょう。

内田山古墳群では、B8号墳以外の古墳でも家形埴輪や蓋形埴輪^{きぬがさがたはにわ}の出土をみえています。内田山古墳群のように古墳の規模が小さな割に形象埴輪が充実する状況は、西山塚古墳・瓦谷古墳群・上人ヶ平古墳群など周辺の古墳にも共通しています。木津川市木津町では形象埴輪が以下の古墳で出土しています。

内田山古墳群（古墳時代中期）

A1号墳－蓋（1）・動物（1）

2号墳－家（1）

3号墳－家（1）

B1号墳－蓋（1）

3号墳－家（1）

6号墳－家（1）

8号墳－家（6）、船（1）

瓦谷古墳群（古墳時代前期）

4号墳－家・蓋、5号墳－家、8号墳－家

西山塚古墳（古墳時代中期）－家・鶏・馬

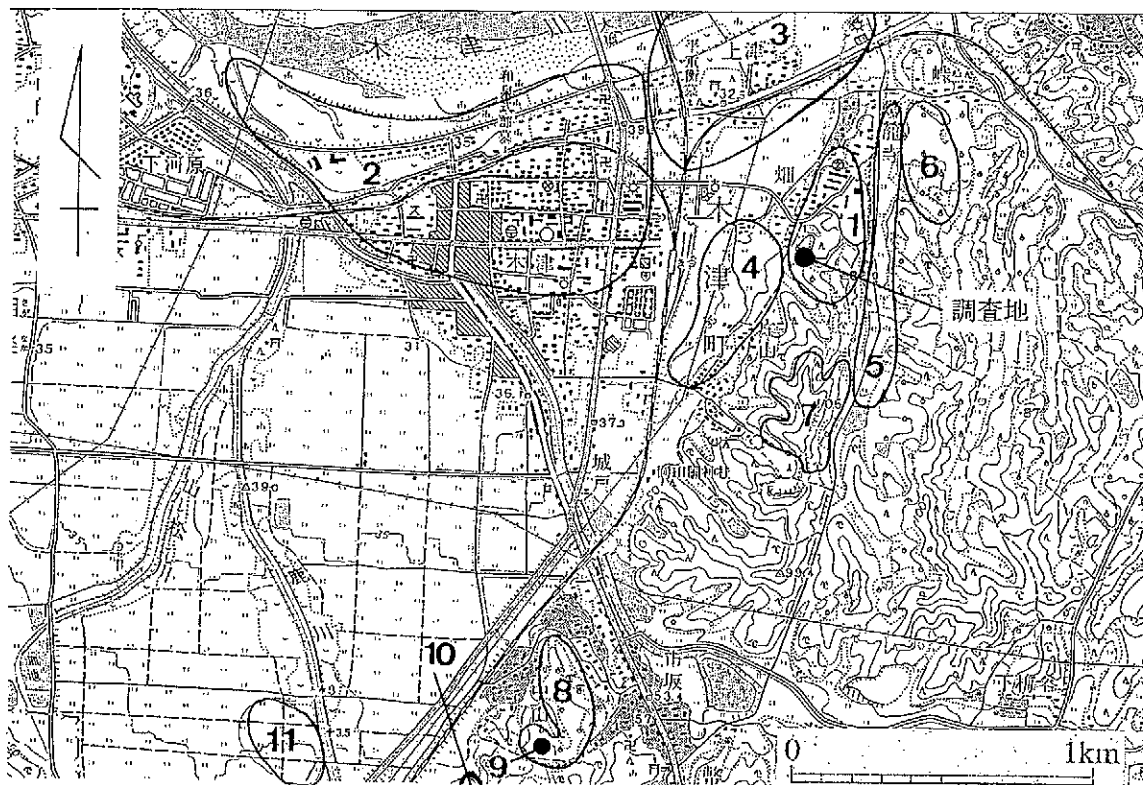
上人ヶ平古墳群（古墳時代中期～後期）

1号墳－蓋、5号墳－蓋・甲冑・鶏・鳥・馬

6号墳－馬、8号墳－蓋・靱・甲冑・鶏・馬

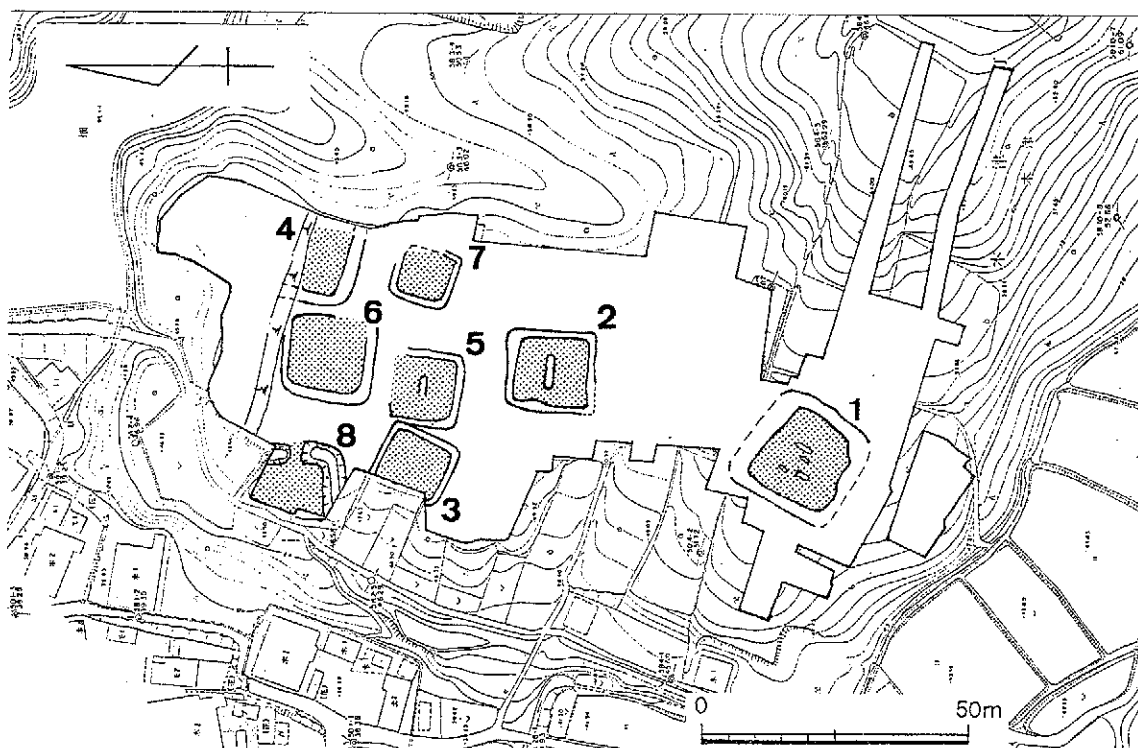
9号墳－家・蓋・靱・鶏

15号墳－蓋、17号墳－馬



第1図 周辺遺跡分布図 (国土地理院 1/25,000 奈良)

- 1、内田山遺跡・内田山古墳群 2、木津遺跡 3、上津遺跡 4、片山遺跡 5、釜ヶ谷遺跡
6、赤ヶ平遺跡 7、木津城跡 8、西山遺跡 9、西山塚古墳 10、瓦谷古墳群 11、弓田遺跡



第2図 内田山古墳群 (B支群) 古墳配置図 (1/1,400)

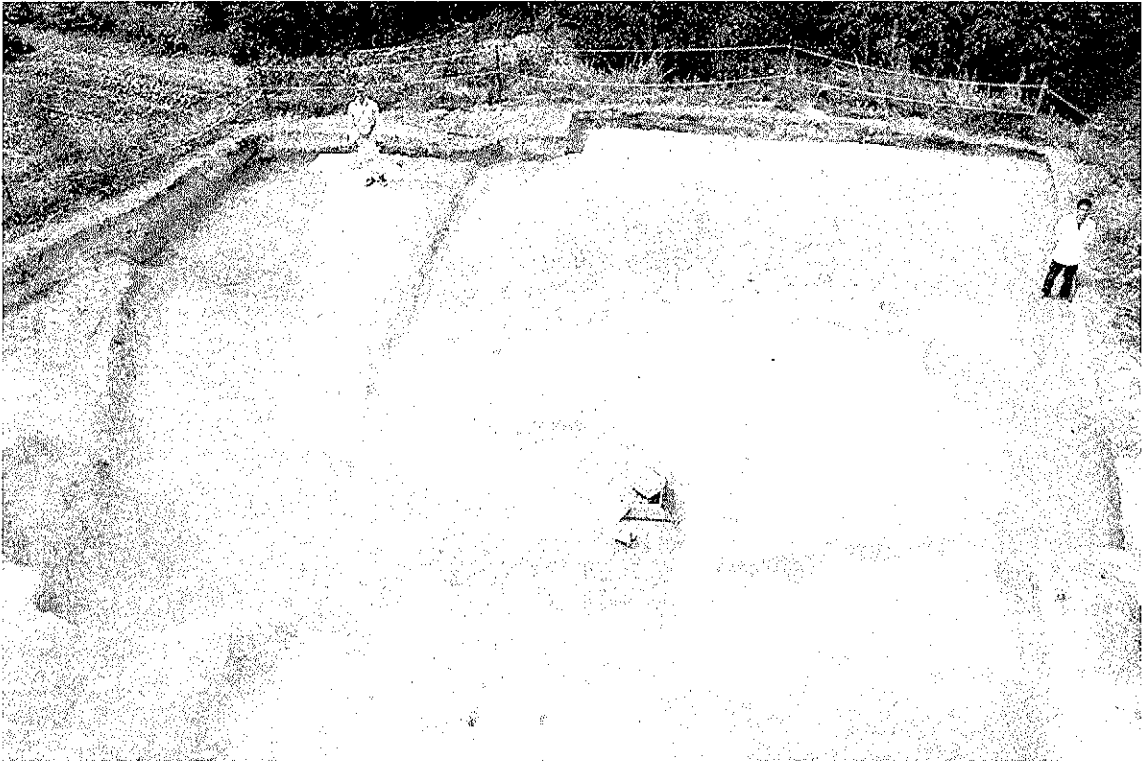


写真1 内田山B1号墳（東から）



写真2 周溝内の家形埴輪出土状況（西から）

八角形墳と銀装の大刀－亀岡市 国分古墳群－

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

調査員 筒井崇史

1. はじめに

国分古墳群は、京都府亀岡市千歳町国分藪ノ本ほかに所在します。この調査は、国営農地再編整備事業「亀岡地区」に伴って実施したものです。調査の結果、当初の予想に反して、現在の水田の下から多数の古墳が新たに見つかり、そのうち 21 基について、調査を実施しました。なお、これらはいずれも横穴式石室を内部主体とする古墳でした。

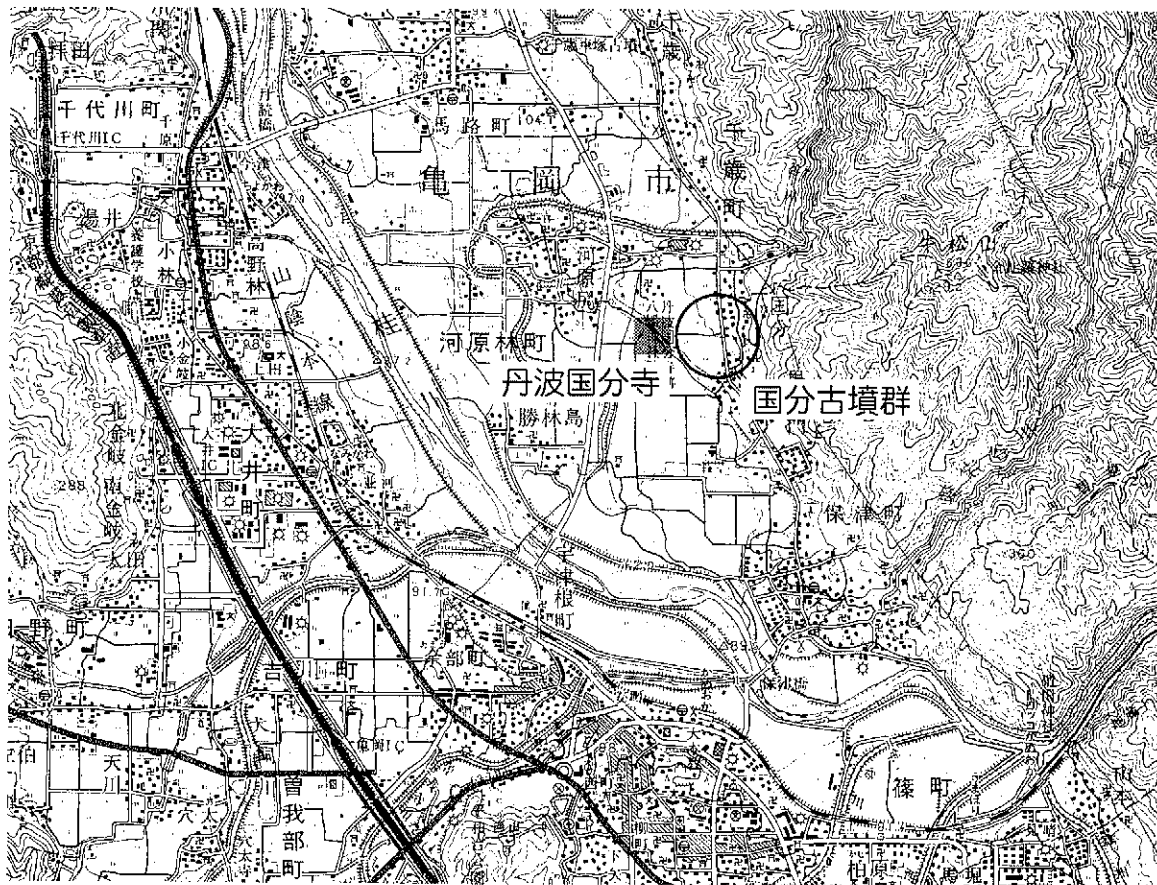
2. 調査の成果

調査の結果、明らかになった古墳の概要は別表の通りですが、今回の調査で注目されるのは、古墳の墳丘斜面に石を並べたものがあり、その形が八角形に復原できると考えられる国分 45 号墳の存在です。45 号墳は、出土した土器から 7 世紀中頃に築造されたと考えられますが、このころは飛鳥地域を中心に墳丘や列石を八角形に整えたものが、大王墓を中心に出現してくる時期に当たります。45 号墳は、大王墓と比べると、ずいぶんと見劣りしますが、国分古墳群の中では、一般的な円墳、方墳とは異なった墳形をし、石室も調査した古墳の中では、最大の規模を誇ります。こうした点から、45 号墳の被葬者が古墳群の中でも有力な立場であったことが想像されます。このことは、副葬品として出土した銀装の大刀など、特別な遺物の存在によっても裏付けられます。

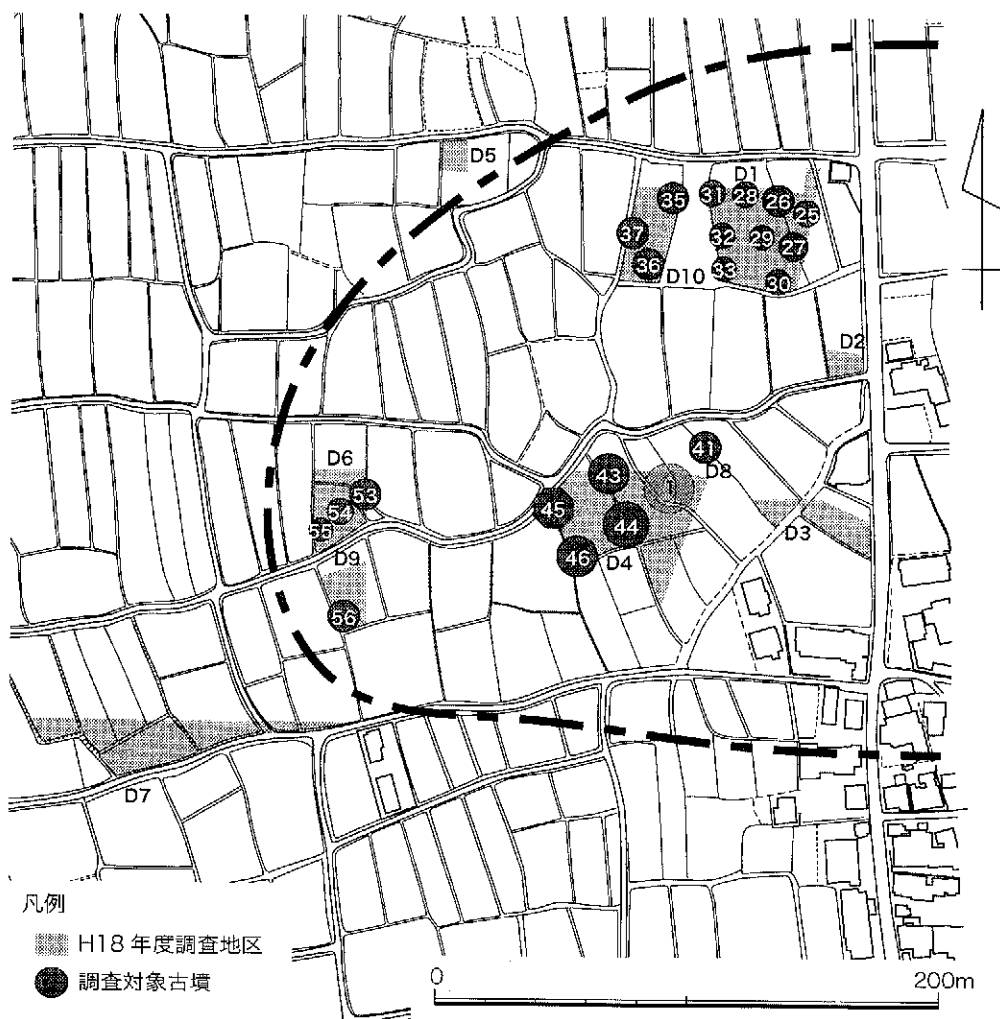
このほかの古墳からも、須恵器や鉄刀、鉄鏃、馬具などの副葬品が多数出土しました。これらの調査成果とあわせると、国分古墳群は、最も古い 29 号墳が 6 世紀末頃に築造され、60～70 年ほど断続的に築造が続き、36 号墳が 7 世紀後半に築造されて終焉を迎えると考えられます。ただ、8 世紀（奈良時代）になっても追善供養などが行われていた可能性があります。

3. まとめ

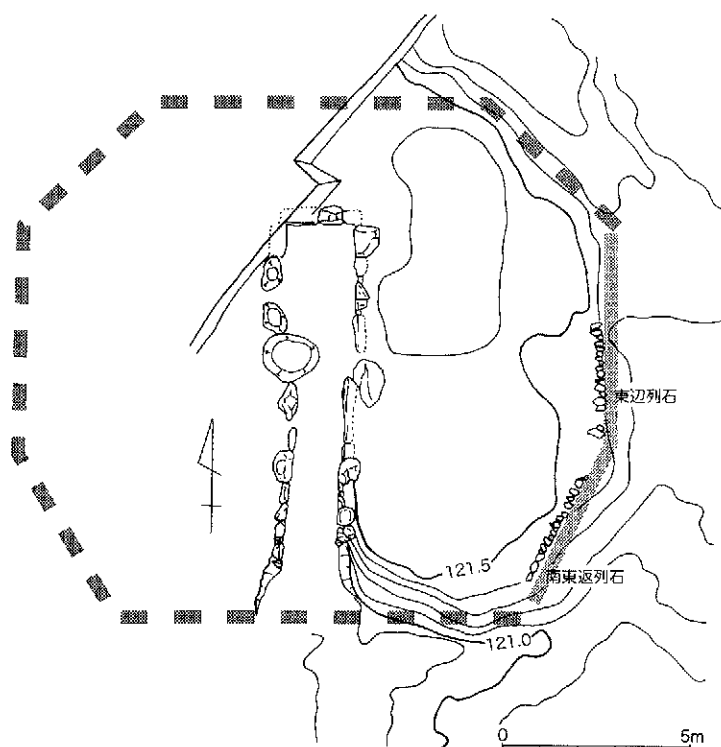
亀岡盆地では、これまで多数の横穴式石室を持つ古墳の調査が行われていますが、これほどまとまった古墳の調査は初めてでした。また、全国的にみても珍しい八角形墳の存在など、亀岡盆地の古代を考える上で重要な調査となりました。八角形墳の被葬者については、すでに存在する古墳群の一角にあること、銀装大刀が副葬されていることなどから、亀岡盆地の出身者で、飛鳥地域や大王家とつながりのある有力な官人と考えるのが妥当でしょう。



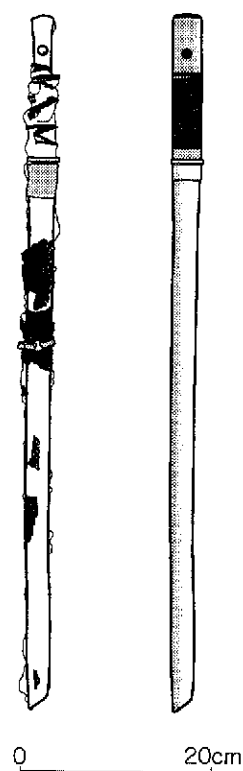
第1図 国分古墳群位置図



第2図 国分古墳群分布図（調査を行った古墳のみ）



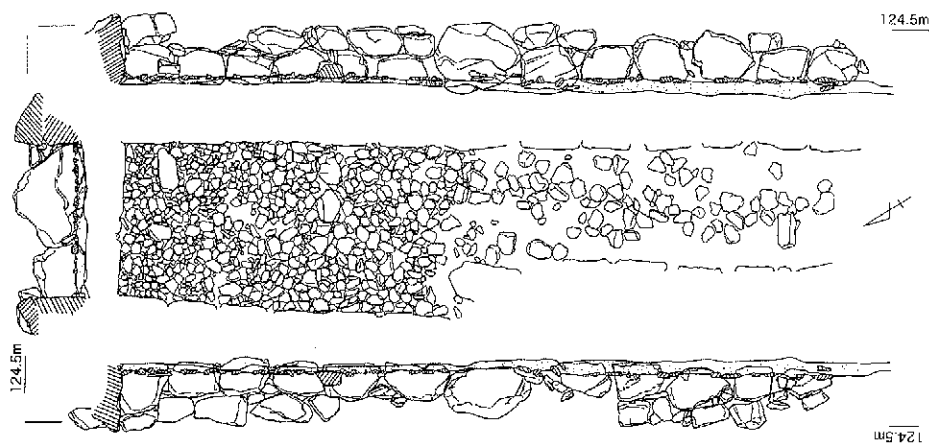
第3図 国分45号墳墳丘測量図



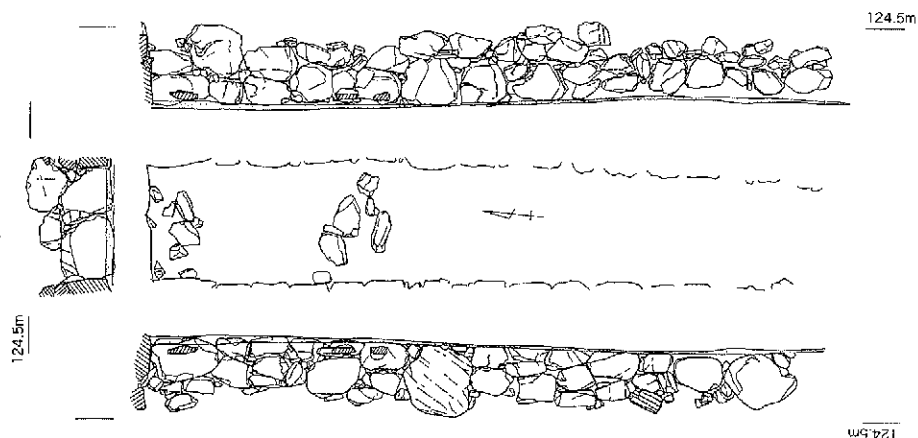
第4図 国分45号墳出土銀装大刀実測図と復原図

	古墳名	墳形	規模	石 室						出土遺物	備考
				形式	全長	玄 室		羨 道			
						全長	幅	全長	幅		
1	国分25号墳	方墳	10m前後	無袖	5.3	--	0.8~1.0	--	--	須恵器	
2	国分26号墳	円墳	12~15m	右片袖	7.8	4.1	1.5~1.7	3.7	1.3	須恵器・耳環・鉄刀	
3	国分27号墳	方墳	10m以上	不明	3.3+	--	1.2	--	--	須恵器	
4	国分28号墳	円墳	12m前後	無袖	7.2	2.6	1.2	4.6	1.1	須恵器・耳環	
5	国分29号墳	円墳	14~17m	右片袖	7.8	3.4	1.7	4.4	1.2	須恵器・土師器・耳環・鉄刀・馬具	
6	国分30号墳	円墳か	10m以上	不明	--	--	--	--	--	須恵器	敷石のみ遺存
7	国分31号墳	不明	不明	不明	--	--	--	--	--	--	石室盛土保存
8	国分32号墳	円墳	10m前後	無袖	4.0	1.5	1.3	2.5	1.1	須恵器	
9	国分33号墳	円墳	11~13m	無袖か	7.6	(2.7)	1.2	(4.9)	1.0	須恵器	
10	国分35号墳	不明	不明	無袖	4.3+	--	1.0	--	--	--	石室盛土保存
11	国分36号墳	不明	不明	無袖	5.4	2.2	1.0	3.2	0.9	須恵器	
				小石室	--	1.8	0.6	--	--	--	
12	国分37号墳	不明	不明	無袖か	2.1+	--	1.1	--	--	--	
13	国分41号墳	円墳か	10m前後	無袖	4.7+	--	1.2	--	--	須恵器	
14	国分43号墳	円墳	16~18m	不明	--	--	--	--	--	須恵器	石室調査区外
15	国分44号墳	円墳	16~18m	不明	--	--	--	--	--	須恵器・土師器・鉄刀	
16	国分45号墳	八角形墳	対辺15m	両袖	9.1	(3.8)	1.8	(5.3)	1.3~1.4	須恵器・土師器・銀装大刀・鉄鏃	
17	国分46号墳	円墳	14m前後	無袖	7.7	3.3	1.3	4.4	1.2	須恵器・耳環・刀子	
18	国分53号墳	円墳	13m前後	不明	--	--	--	--	--	須恵器	石室盛土保存
19	国分54号墳	橢円墳	7~10m	無袖	5.4	--	1.0	--	--	須恵器・土師器・耳環	
20	国分55号墳	円墳	7~8m	無袖	2.9	1.5	0.7	--	--	須恵器・土師器	
21	国分56号墳	円墳か	不明	不明	7.5+	3.6	1.4~1.6	3.9+	--	須恵器・鉄刀・鉄鏃	

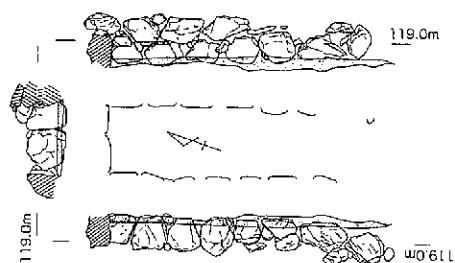
国分古墳群一覧表（調査実施分）



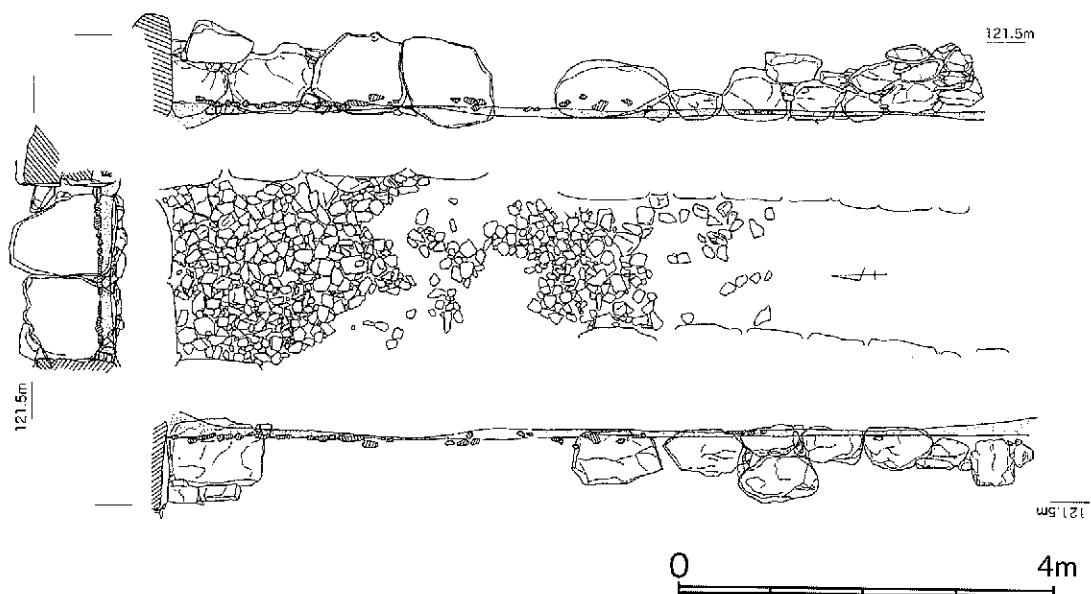
国分 29 号墳
(6 世紀末)



国分 28 号墳
(7 世紀初め)



国分 55 号墳 (7 世紀中頃)



国分 45 号墳
=八角形墳
(7 世紀中頃)

第 5 図 主要石室実測図

小さな展覧会の見どころ（展示品案内）

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター

資料係長 田代弘

京都府を、丹後 丹波、山城の3地域に分け、北から南に順に展示遺物を配置しました。展示した遺跡の名称、調査機関、主な展示遺物、時代は次の通りです。

【丹後】日本海に面した地域の遺跡

成相寺旧境内（宮津市教育委員会／懸仏・青磁椀など／奈良時代～室町時代）
 難波野遺跡（当センター／祭祀に用いた土器群／古墳時代中期）
 宮津城跡（唐津焼などの食器類／江戸時代）
 舞鶴市田畦遺跡（集落跡／パネルのみ／飛鳥時代）

【丹波】山間を流れる大河川沿いの遺跡

由良川流域

河守北遺跡（当センター／瓦・食器類／飛鳥～奈良時代）
 安井北古墳群（福知山市教育委員会／土鈴のついた須恵器高坏／古墳時代）
 土遺跡（福知山市教育委員会／文字が刻まれた須恵器の杯／飛鳥時代）
 加迫古墳群（綾部市教育委員会／馬具・須恵器などの副葬品／古墳時代後期）
 桂川上流域
 城谷口古墳群（当センター／須恵器など副葬品／古墳時代後期）
 室橋遺跡（当センター／土鍾など／平安時代～鎌倉時代）
 野条遺跡（当センター／石鍾など／平安時代から鎌倉時代）
 時塚遺跡（当センター／磨製石器類／弥生時代中期）
 国分古墳群（当センター／銀装大刀など副葬品／古墳時代後期）

【山城】山城盆地の遺跡

乙訓地域

上里遺跡（（財）京都市埋蔵文化財研究所／縄文土器など／縄文時代晩期）
 長岡宮跡（（財）向日市埋蔵文化財センター／大極殿跡／パネルのみ／奈良～平安時代）
 神足遺跡（（財）長岡京市埋蔵文化財センター／磨製石器類／弥生時代中期）
 伊賀寺跡（当センター／食器類／古墳時代）
 境野1号墳（大山崎町教育委員会／家形埴輪ほか／古墳時代前期）

南山城地域

薪遺跡（当センター／円面硯ほか／古墳～奈良時代）
 芝ヶ原9号墳（城陽市教育委員会／陶質土器／古墳時代中期）
 井手寺跡（井手町／瓦類／奈良時代）
 高麗寺跡（木津川市教育委員会／鴟尾ほか／奈良時代）
 内田山B8号墳（当センター／家形埴輪ほか／古墳時代）
 恭仁宮跡（大極殿跡／パネルのみ／奈良時代）

【小企画】

小企画として、「水辺のマツリ」・「古墳のマツリ」のコーナーを設置しました。「水辺のマツリ」では、宮津市難波野遺跡でみつかったたくさんの土器群を集めて、出土した時の迫力ある様子を再現しました。「古墳のマツリ」では、古墳時代前期の大山崎町境野1号墳と、中期の木津川市内田山 B8号墳の埴輪を展示しました。前期と中期の家形埴輪を比較できるように配置しました。

このほか、空きスペースを利用して、「ちょっと前の調査事務所」、「体験コーナー」、「普及啓発コーナー」などを設けました。「ちょっと前の調査事務所」では、廃用品となったカメラや測量器財、発掘用品をまとめ、20 年ほど前の調査事務所の雰囲気を再現してみました。「体験コーナー」は、古代人が道具とした鹿の角と皮、石器原材料、土器破片などを配置し、さわったり、かぶったり、その触感を楽しんでいただけるように工夫しました。「普及啓発コーナー」では、今年度、当センターが新たに組み込んだ盲学校での「出前授業」や、るり溪少年自然の家での「土器作り体験」の様子などを紹介しました。

時代区分表

		世紀																									
		約1万年前	前4	前3	前2	前1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
時 代																											
	旧石器時代	縄文時代		弥生時代			古墳時代					飛鳥時代		奈良時代		平安時代			鎌倉時代		室町時代		安土・桃山時代		江戸時代		現代



- | | | |
|----------------|-----------------|-------------------|
| 1.成相寺旧境内 | 9.室橋遺跡 | 17.境野1号墳 |
| 2.難波野遺跡 | 10.野条遺跡 | 18.木津川河床遺跡 |
| 3.宮津城跡 | 11.時塚遺跡 | 19.薪遺跡 |
| 4.河守北遺跡 | 12.国分古墳群 | 20.芝ヶ原9号墳 |
| 5.安井北古墳群 | 13.上里遺跡 | 21.井手寺跡 |
| 6.土遺跡 | 14.長岡宮跡 | 22.高麗寺跡 |
| 7.加迫古墳群 | 15.神足遺跡 | 23.内田山B8号墳 |
| 8.城谷口古墳群 | 16.伊賀寺遺跡 | 24.恭仁宮跡 |

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターの現地説明会や埋蔵文化財セミナーなどは、下記のホームページでもご案内しています。

<http://www.kyotofu-maibun.or.jp/>

(財)京都府埋蔵文化財調査センター
〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3
Tel (075) 933-3877 (代) FAX (075)922-1189